



奈良町にぎわい通信

Vol.32

二〇一七・大雪〜冬至

発行
奈良町
にぎわいの家





当館スタッフによる「にぎわい歩き」今回は高畑～柳生方面へまずはお話から



晩秋をゆっくり歩こう。



茶会のしつらえ、いつも楽しみです。



一刀彫りの雀！Cute！



佐久間宗成社中による四季の茶会



歌人、喜多隆子先生による短歌講座。秋の歌を読み、実作も。



かまど体験は「奈良のっぺ」と「茶飯」。ご飯が炊けて、今から、フタをあけるよー！

奈良町にぎわいの家 11月のイベントから



県大芸術祭参加
オリジナル朗読劇
「100年女優」満員御礼！
県立大の学生も参加、昭和、平成生まれ共に熱演！



「にぎわいの花咲かそうら秋」
大和未生流による花展。
町家に自然の息吹と華やぎが。
海外のお客様も感動。



OSKのテーマ曲
「桜咲く国」も
皆で歌いました。

当館100年企画特別展 「春日大社～ゆかりの作を身近に」

11/18, 19開催された、春日大社ゆかりの展示。美術館のようにガラス越しでなく、座敷でじっくり見ていただける、町家ならではの企画です。これらの作は、地元の方にご協力いただきました。当館開館より2年半。いろんなご縁をいただいてこうした展示の機会となったことに感謝しています。新聞にカラーで掲載されたこともあり、近隣の皆さんも興味深く見ておられました。春日講の町内の方は、春日鹿曼荼羅をじっくり見ながら、その特徴や素晴らしさをお話されていました。また、鎧の画の前で長いことじっと座って鑑賞されている若い方や細密な描写に見入るお客様もいました。春日大社関係者の方も多数ご覧下さり「2日の展示ではもったいない。」とお声かけいただきました。こうした「家の宝」が身近に、今も暮らしの中にある…なんと贅沢なことかと思えます。奈良の時間の分厚さを改めて感じた展示となりました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

おの・こまち(当館プロデューサー)



{春日鹿曼荼羅}
「春日大明神」を始め
書や日本画など
貴重な作が
並びました。

蔵展示企画「町家の水族館」

～中学生による伊藤若冲「諸魚図」の自由模写展～

伏見中学校生徒による、日本画の、あの若冲の自由模写作品、しかも青鉛筆1本で！力作が並びました。来館者もレベルの高さに感嘆！「何気に立ち寄った施設でこの青い魚の絵にはびっくり。」「青鉛筆1本でこんな素晴らしい作品になるなんて。」「元の絵より生き生きとして楽しげ。」「模写とはいえ、どれも個性的。」「今、ここに来て良かった。」など、皆さん、熱い感想を残して下さいました。



左が若冲の絵。これを見本に描くと…

それぞれの
水中の世界が！

しろがねの連嶺はるか
窓を過ぐ
北へゆく旅大雪の日の

白銀のはるかな嶺々が
車窓を通り過ぎてゆきます。
北へ向かう旅。暦は大雪です。

オリジナル節気短歌
喜多隆子(歌人)
節気マーク・
はぎデザイン
金田あおい(藍寧舎)

事務局だより

2017
冬至号

冬至から願うこと

事務局長 藤野正文

12月といえば、二十四節気でも有名な「冬至」の季節。太陽は最も南にかたより、一年中で昼がいちばん短く、夜がいちばん長くなる日で、こよみの作成の原点として二十四節気のうちでもっとも重要な日であったようです。

この日は、昔の人は生命の終わる時期、死に一番近い日だと考えていたようで、現在でもその厄を払うために、ゆず湯に入ったり、かぼちゃやお汁粉を食べて栄養を取り、体を温めることで、無病息災を願う風習が続いていました。

また、冬至には「ん」のつくものを食べると「運」が呼びこめるといわれています。にんじん、だいこん、なんきん（かぼちゃ）などを食べて栄養をつけ、寒い冬を乗り切る知恵ですね。一方では、冬至を過ぎると、太陽の力がすこしずつ強まり、陽の力が増していく、「再生を願う日」でもあったようです。

このように、季節の変化と祈りの風習と作物が重なり合う日本人のくらしを大切にしたいものです。太陽の強弱、月の満ち欠け、季節ごとの行事、季節ごとに咲く花と色づく木々そしてその香り、季節の作物、鐘



飛鳥小学校の皆さんが来館。
先生は町家に詳しいのです。



◎にぎわいの風景◎

触・・・の音や虫の音、木や土の匂いと感
奈良町にぎわいの家は、日本人の感性に触れる場、発信の場でありたいと思っておりますが、奈良町全体が、日本人の季節感を五感で感じるところ、祈りを感じるところ、こころ豊かに住まうところ、そして、訪れる方々が「心洗われるところ」にもなれば、いいなあと思っています。



水墨画、絵手紙、月1回
行ってます。お気軽に
ご参加ください。



海外のお客様、
抹茶のお味は？



自分でたてる抹茶体験

奈良町にぎわい通信vol.32

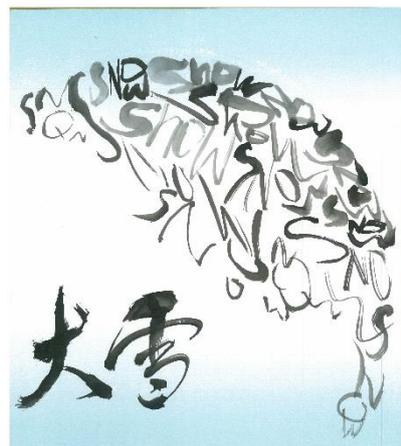
制作...奈良町にぎわいの家管理共同体
発行人...二十軒起夫
編集・構成...おの・こまち
表紙デザイン・レイアウト...福田昭一
撮影...奈良町にぎわいの家スタッフ

奈良町にぎわいの家 9:00~17:00 水曜日・休館
〒630-8333 奈良市中新屋町5 TEL 0742-20-1917

nigiwainoie@gmail.com

http://naramachi-nigiwainoie.jp/

書...逢香



奈良町にぎわいの家
オリジナル節気マーク



大雪

12/7~21



冬至

12/22~1/5

朝明より鴉は啼きて
うつうつと冬至のひかり
金をふくめる

前登志夫(歌人)